

株主通信

平成23年8月



YBHD NEWS No.27



つなく、むすぶ、広げる、未来へ

The Next Perspective



株式会社 横河ブリッジホールディングス



取締役社長

吉田 明

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、東日本大震災により被災された皆様には、あらためて心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を祈念いたします。

さて、ここに株主通信「YBHD NEWS」第27号をお届けいたします。

当社グループを取り巻く事業環境は、公共事業費の削減や受注競争の激化による受注単価の低下など、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社はグループ各社の結束を固め、競争力の強化を図ってまいります。

役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年8月

平成23年7月29日に、平成24年3月期第1四半期(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)の決算短信を公表いたしましたので、その概況につきましてご紹介いたします。

連結経営成績(累計)

	平成24年3月期第1四半期	平成23年3月期第1四半期
売上高	15,037 百万円	18,223 百万円
営業利益又は営業損失(△)	△30 百万円	945 百万円
経常利益	41 百万円	1,282 百万円
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△220 百万円	501 百万円

【連結経営成績に関する定性的情報】

当社グループの当第1四半期の総受注高は、91億9千万円となりました。セグメント別の受注高としては、橋梁事業で51億5千万円(前年同期比36.8%減)、建築環境事業で37億円(同27.0%増)、先端技術事業で3億3千万円(同14.3%減)となりました。

決算面につきましては、当第1四半期の売上高は150億3千万円(前年同期比17.5%減)、営業損失は3千万円(前年同期は9億4千万円の利益)、経常利益は4千万円(前年同期比96.8%減)、四半期純損失は2億2千万円(前年同期は5億円の

利益)となりました。セグメント別の売上高といたしましては、橋梁事業113億7千万円、建築環境事業27億7千万円、先端技術事業6億4千万円、不動産事業2億5千万円となりました。売上高につきましては、橋梁事業の売上高が工程上の事由により大幅に減少いたしましたため、販売費及び一般管理費を賄いきれず、営業利益を確保できませんでした。また前年同期と比較して営業外収益に計上される負ののれん償却額が2億9千万円減少いたしましたので、経常利益は大幅に減少し、四半期純損失を計上する結果となりました。

平成24年3月期の連結業績予想

	第2四半期連結累計期間 (平成23年4月1日～平成23年9月30日)	通期 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)
売上高	42,000 百万円	82,000 百万円
営業利益	950 百万円	1,200 百万円
経常利益	1,000 百万円	1,270 百万円
当期(四半期)純利益	480 百万円	600 百万円
1株当たり当期(四半期)純利益	10円79銭	13円53銭

【連結業績予想に関する定性的情報】

平成24年3月期の連結業績予想につきましては、期首の橋梁事業の受注残高が過去最高であったことを背景に、第2四半期以降は各々の工事の進捗に伴い塗装、輸送、現場架設などの生産が増加し始め、売上高と利益に反映されていくと見込んでおりますので、現時点での業績予想の修正は行っておりません。

Q 社長に就任され1年が経過しましたが、この1年を振り返って総括していただけますか？

A 当社グループを取り巻く事業環境が、予想以上に急速に厳しくなった1年でした。特に橋梁事業については不透明感が増し、このような状況を乗り切るため、なお一層のグループの強固な基盤作りを目指しました。私の社長就任時にホールディングス体制移行後、約3年が経過していました。これまでもグループ内の問題意識の共有化と連携の強化等に努め、相応の効果がありました。この1年間はグループが更に結束することにより、競争力の強化を求めました。幸いグループの役員・従業員の理解は進んでいると思っています。



Q 今年度は、中期経営計画の2年度目にあたります。計画の中で重点事業と位置づけました『保全』『海外』『環境』『土木関連』の各事業の進捗についてはいかがですか？

A 保全事業につきましては、主に横河工事の保全事業本部が対応しております。昨年度は同業他社の参入による競争の激化や大型工事の発注の延期などにより受注が伸びませんでした。今年は大型の技術力で勝負できる案件の発注が予定されていますので大いに期待しております。また、今後、インフラの維持管理等この分野に対する社会的な要請は益々強くなると見えております。

海外事業につきましては、東アジア・東南アジアを中心に『現地化・一体化』を海外営業戦略とし事業展開を進めてきました。現在ベトナム・インドネシアで成果が上がっていますが、引き続き『ODA案件』を中心に積極的に営業活動を進めてまいります。

環境事業につきましては、正直苦戦しています。水処理装置、太陽光発電設備等の品揃えはありますが、まだ大きな案件の受注には結びついておりません。しかし、環境問題は解決すべき喫緊の課題ですので、女子サッカーW杯で優勝した『なでしこJAPAN』のようにあきらめずに努力すれば、必ず実を結びますので新規の受注に向けこれからも鋭意営業活動を進めてまいります。

土木関連事業につきましては、本年3月に首都高速道路の横浜環状北線のトンネルセグメント工事を受注しました。今後も、過密な都市部の高速道路建設では、地下部に供用される『トンネルセグメント』が増加すると思われるので大いに期待しております。

Q 今後の株主価値の向上に向けた取り組み(施策)についてお聞かせください。

A 業績の向上により株価の上昇を目指すことは、経営者にとって当然のことと考えております。そのことを基本に、まず配当政策についてですが、『当社は株主の皆様に対する利益配分を最重要施策の一つとして認識し、業績・配当性向などを総合的に勘案のうえ、安定した配当を継続すること』を基本方針としております。今後もこの方針を堅持したいと考えております。因みに前期は1株につき中間配当金4.5円と期末配当金4.5円を合わせ年間配当金は9円といたしました。

また、昨年6月から、今年の6月までの間に1,217,604株の自己株式を取得いたしました。今後も機会があれば検討することを考えております。

さらに株主優待制度を導入いたしました。(毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された株主様のうち、1単元(1,000株)以上ご所有の株主様を対象に1,000円のクオカードを贈呈)これも引き続き実施いたします。

現在、第2四半期と本決算後に決算説明会を開催しており、その他にも随時、個人投資家向けの会社説明会を開催しております。今後も継続していく予定であり、あらゆる機会を通じて当社グループについてのご理解を深めていただくことを考えております。

Q 株主様や個人投資家のご反応はいかがでしたか？

A 私どもが考えていましたよりも、事業内容に関する質問も多く、当社に対して興味を持たれて



いる方がたくさんいらっしゃると感じました。今後も、丁寧に分かりやすく説明することを心がけ、当社グループを多くの方々にご理解していただきますよう努めてまいります。

Q 最後に株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

A 当社グループを取り巻く事業環境は、大変厳しいものがありますが、役員・従業員一丸となって業績向上を目指してまいりますので、株主の皆様にかかれましては、なお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

Topics 1

尾山高架橋上り線鋼上部工事 (優良工事表彰受賞)

株式会社横河住金ブリッジが、このたび国土交通省中部地方整備局より、優良工事表彰を受賞いたしましたので、その概要をご紹介します。

- ・ 工事名称：平成20年度 23号知立BP尾山高架橋上り線鋼上部工事
- ・ 工期：平成21年3月17日～平成23年3月15日
- ・ 構造形式：4径間連続非合成箱桁、10径間連続非合成鈹桁(2連)
- ・ 規模：橋長873m、鋼重1,700t
- ・ 所在地：愛知県安城市



本工事は東海地方の大動脈である国道23号線の渋滞緩和を目的とした立体化工事の一環として発注されたもので、1日あたり数万台にも及ぶ車両が行き交う重交通路線上での工事となることから、交通規制時間の抑制と安全対策が最大のテーマとなりましたが、発注者、協力会社など関係各方面と良好な関係のもと鋭意取り組んだ結果、当初の予定より1ヶ月前倒しで無事竣工することができました。また、床版には同社が開発したTRC床版を採用、実物大実験などで良好なコンクリート充填性能を確認し、発注者からも高い評価をいただいています。

同社はYBHDグループの一員となつて間もなく2年を迎えますが、これからも更なる努力を重ね、良質な社会インフラ形成の一翼を担ってまいります。



夜間架設の状況



完成した尾山高架橋

Topics 2

高能率・安全・省力化に応える!! 船舶上架施設

株式会社榑崎製作所より、船舶上架施設についてご紹介いたします。

船舶上架施設とは、船舶の簡易的な補修や塗装、あるいは緊急避難などのために、船を一時的に陸へ上げるための施設です。特に冬季の北海道オホーツク海沿岸地域では、押し寄せる流氷から船舶を守るため、船を上架させた状態で越冬します。

榑崎製作所の手掛ける船舶上架施設の種類としては、ラップ式(斜路式)とリフト式があります。ラップ式は港に設置された斜面を利用して船を引き上げる方式です。これに対しリフト式は、予め海中に沈められたリフターテーブル上に船を誘導し、船底のリフターテーブルを船ごと陸上部の地盤高さまで上昇させて上架する方式です。

船舶上架施設は、作業性・安全性が極めて良い施設として評価を得ており、北海道の漁港75箇所、北海道のマリーナで9箇所、東北以南の漁港で12箇所、合計96箇所の漁港等に導入されています。これからも、お客様からのニーズ、工事を通じて得た実績とノウハウを基に、更に改良を加え北海道・東北地域だけでなく全国的に営業展開していく所存です。

リフト式船舶上架施設の作業手順



リフターテーブルによる船舶上架



軌条上をウインチで牽引移動



台車から設置場所に上架完了

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 〒105-8574 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120(78)2031(フリーダイヤル)
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/

※表紙の写真は、第2音戸大橋
鋼中路式ニールセンローゼ桁
橋長292m(広島県呉市)

 **株式会社 横河ブリッジホールディングス**

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111(代表) <http://www.ybhd.co.jp/>

YBHDグループ



株式会社 横河ブリッジホールディングス
グループ全体の経営管理



株式会社 横河ブリッジ
橋梁・精密機器製造



横河工事株式会社
土木・建築・保全



株式会社 横河システム建築
システム建築・開閉式建築システム・環境



株式会社 横河住金ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・セグメント



株式会社 榎崎製作所
水処理・環境製品・鋼構造物



株式会社 横河技術情報
情報処理サービス・ソフトウェア開発



株式会社 横河ニューライフ
不動産管理・情報システム・人材派遣



株式会社 ワイシーイー
橋梁等構造物の総合エンジニアリング

